



# 令和4年度 しまねソフト研究開発センター 事業説明

2022年3月18日

しまねソフト研究開発センター

# 1. しまねソフト研究開発センター事業の経緯

ITOC  
ミッション



IT分野での技術発展と  
オープンイノベーションの  
加速による新事業創出支援



新型コロナウイルスの影響もあり、  
県内既存産業に向けたDX推進、県内  
IT企業のDX対応への支援強化

H27年度～



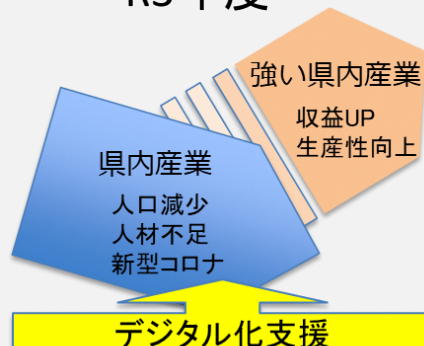
オープンイノベーションの加速、新商品・サービス創出支援を行うため、先駆的研究テーマとして、機械学習、mruby/cを掲げ、技術支援、人材育成に取り組む。

R1年度～



新たなサービス創出に向けて、技術支援に加えて、“島根らしい課題”に着目。R1年度からIT企業×異業種「ITOC X-Techラボ」を実施。事業化支援を強化。

R3年度～



新型コロナの影響で地域産業は苦境。この現状をデジタル化で打開するため、新たに中小企業のデジタル化支援として、「しまねデジタルイノベーション推進事業」をスタート。

R4年度



新事業創出や県内企業のデジタル化支援に加えて、拡大するDX市場に県内IT企業がチャレンジしていくため、開発手法、先端技術、アーキテクトの面からITOCがサポートしていく。

## 2. ITOCの施策概要

### IT企業の事業創出支援

#### ■情報産業アドバイザー

- 新規事業を考えている県内IT企業への相談対応、アドバイス。

#### ■助成金

- データ活用型自社サービス創出支援助金
- IT活用サービス創出シード支援助成金
- 受託開発競争力強化支援助成金
- 試作・技術開発支援助成金
- 開発ソフト販路拡大支援助成金

#### ■X-Tech (IT×異業種)

- IT企業と様々な業種の企業をマッチング。これまで実施。農業、観光業、小売業、ビルメンテナンス業、ホテル業、住宅メーカー、福祉を実施。

#### ■事業アイデア創出支援

- 事業アイデアを生み出す学びの場、ハッカソンの実施。
- テクノアークしまね2Fフロアを活用し、異業種との交流などから事業アイデアの創出をサポートする。

### 先端技術支援

#### ■IoT

- ITOC専門研究員が、県内IT企業等にIoT製品開発に向けて、**共同研究**などを通して技術支援。
- マイコン、IoTデバイス向けに小型化されたプログラミング言語「mruby/c」をの研究開発。研究開発支援から、実用化に向けた量産化に関する技術移転も実施。
- 技術支援に加えて、県内製造業とのマッチングから事業化支援も実施。

#### ■機械学習

- 県内IT企業との**共同研究**を通じた、機械学習の技術支援。
- 県内でデータを保有する企業、行政機関との共同研究。この知見を県内ITへフィードバック。
- 県内IT向け機械学習人材育成事業における個別企業のフォローアップ支援。

### 企業の人材育成支援

#### ■エンジニア向け人材育成

- 県内ITエンジニア向けに高度な専門家による人材育成講座を実施する。
- ITOCではより実践的な企画による人材育成事業を実施する。

#### ■メンター支援

- 県内IT企業向けに個社支援を行う。
- DXを支える先端技術・開発手法・アーキテクト（デザイン思考、アジャイル開発、DevOps、ノーコード/ローコード、クラウド、コンテナ、マイクロサービスアーキテクチャーetc）
- 特に、Ruby×アジャイル開発に注力する。

#### ■VR、AR、ドローン支援

- VR、AR、ドローンのアドバイザーによる県内企業への相談対応を実施。
- ITOCが保有する機器などを用いて、県内企業などの実証事業をサポート。

# 3. データ活用型自社サービス創出支援助成金

県内IT企業がAI等を利用し、データ活用型の新たなサービス開発を創出する取り組みを支援

## 1. 助成対象となる事業

データ活用型で新たなサービスを創出するための要素技術の研究開発、システム開発、現地実証、販路開拓などの取り組み

## 2. 助 成 率

対象経費の1/2以内

## 3. 助 成 期 間

最大2年（但し、1年毎に審査会を実施する）

## 4. 助成限度額

単年度500万円

## 5. 対 象 経 費

人件費、旅費、産学連携研究費、外注費、市場調査費、展示会出展経費、開発及び検証に必要な機器の購入経費、等

# 4. IT活用サービス創出シード支援助成事業

ITを活用した新たなサービス・製品を創出する際の経費の一部を助成

## リサーチ・インタビュー支援助成



助成率：対象経費の 1/2  
 限度額：50 万円以下  
 助成期間：3 ヶ月  
 対象経費：人件費、旅費、  
 等



アイデア段階から製品開発まで、  
 どの段階においても支援メー  
 を設け、県内IT企業の新事業創  
 出に向けて、強力に支援。

## プロトタイプ検証支援助成



助成率：対象経費の 1/2  
 限度額：100 万円以下  
 助成期間：3 ヶ月  
 対象経費：人件費、旅費、  
 外部委託費、  
 等

## サービス・製品開発支援助成



助成率：対象経費の 1/2  
 限度額：300 万円以下  
 助成期間：6 ヶ月  
 対象経費：人件費、旅費、  
 外部委託費、  
 等

## 5. 試作・技術開発支援助成金

新たなマーケット創造や顧客開拓に繋がる、I T関連技術を用いた独創性や新規性に富む試作・技術開発を支援

### 1. 助成対象となる事業

- ・ I o T 技術等を用いた試作開発を行い、顧客候補へ試作を実体験させニーズを確かめることで、市場参入の可能性を探る事業
- ・ 技術リスクが存在する中で、開発可能か技術検証を行い、市場性を探る事業

### 2. 助 成 率

対象経費の1/2以内

### 3. 助 成 期 間

交付決定日から3ヶ月以内

### 4. 助成限度額

50万円

### 5. 対象経費

- (1)人件費（本事業に直接関与する者の直接作業時間に対するものに限る）
- (2)試作・技術開発に必要な外部委託費
- (3)実地検証に必要な費用

## 6. 開発ソフトウェア・サービス販路拡大支援事業

県内IT企業が自社で開発したソフトウェア製品等の販路を拡大するため、県外市場での新規顧客開拓等を目指す取り組みを支援

### 1. 助成対象となる事業

中期的な販売計画に基づき、開発ソフトウェアの販路拡大を目的として実施する、県外で開催される展示会等への出展・これと連携して行う県外での営業活動旅費、Webマーケティングに関する費用などを助成。

### 2. 助成率

助成対象経費の1/2以内

### 3. 助成限度額

150万円

### 4. 助成期間

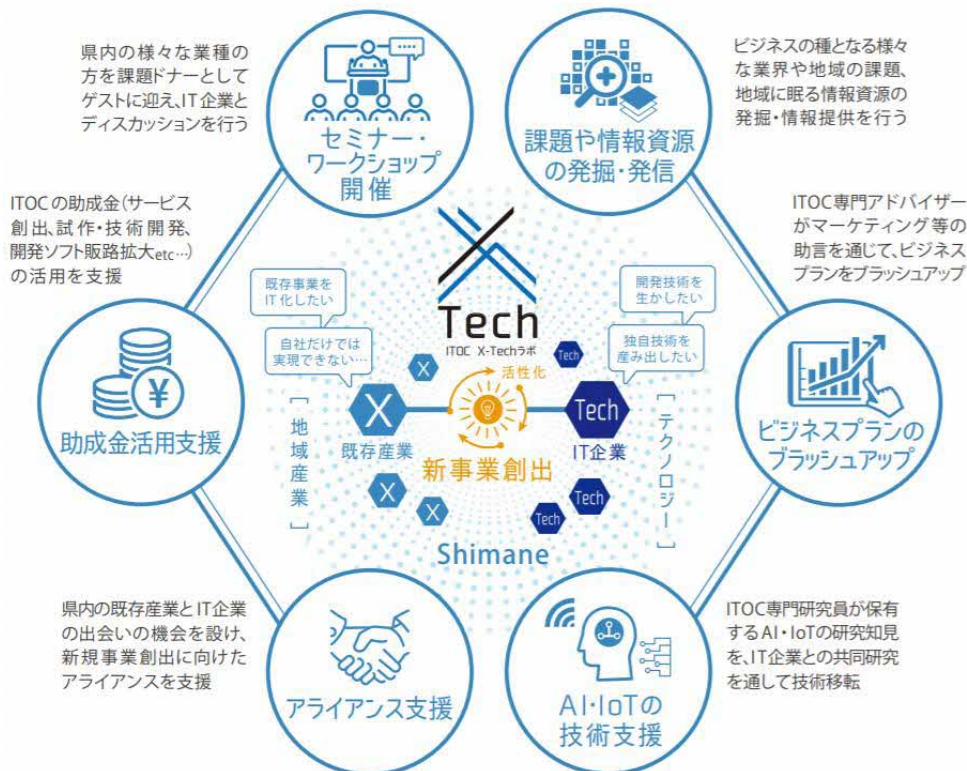
交付決定日から1年以内

### 5. 助成対象経費

展示会等会場借料、Webマーケティングに係る経費、旅費等

# 7. 「ITOC X-Techラボ」 IT企業による異業種訪問

既存企業とIT企業を結びつけ、新たな事業創出を目指す



▼食品スーパーの視察（株式会社みしまや）



▼小売店舗バックヤードでのヒアリング



▼施設園芸場の視察（株式会社安藤農園）



▼島根県オリジナル品種「ゴールデンパール」



| 訪問企業／業種           | 概要                                                |
|-------------------|---------------------------------------------------|
| (株)安藤農園／農業        | 島根県のオリジナルメロン「ゴールデンパール」の生産者。作物の値付けや使用農薬の記録等を議論     |
| 八百万マーケット／観光業      | 松江城と宍道湖畔でカフェ事業も展開。ITや自社で保有するデータの活用方策等について意見交換     |
| (株)さんびる／ビルメンテナンス業 | 総合ビルメンテナンスを多角的に展開。1,000名を超える従業員の勤怠管理等へのIT活用について議論 |
| (株)みしまや様／小売業      | 県内13店舗を展開する地元密着型スーパー。棚卸業務をはじめ人手に依存する業務の簡略化を議論     |
| 松江ニューアーバンホテル／ホテル業 | 宍道湖畔に位置したツインホテル。人にしかできないことに注力するためにITをどう活用するか意見交換  |

# 8. Ruby×アジャイルリモート開発の推進

## 県内IT企業をめぐる現状

### S（強み）

- ・ 県内IT業界の連携
- ・ Rubyエンジニアの集積
- ・ 島根のRubyブランドイメージ
- ・ アジャイル開発への取組

### W（弱み）

- ・ 単独では大型案件の受注は難
- ・ 人件費の上昇
- ・ 採用競争の激化
- ・ 取引先の偏り

### O（機会）

- ・ DXで拡大するIT市場
- ・ 受注環境は好調
- ・ 国を挙げてのデジタル化推進
- ・ コロナ禍でも成長産業

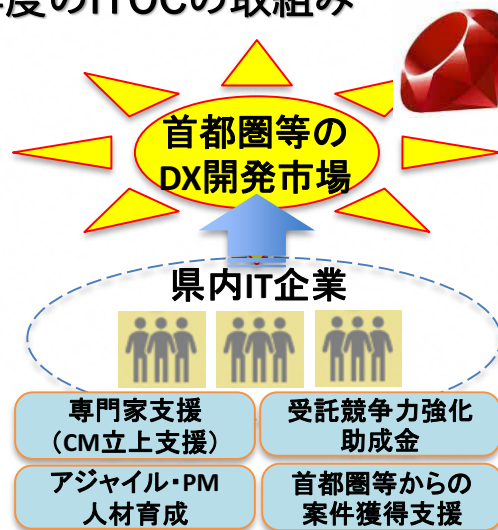
### T（脅威）

- ・ 新たな技術へのキャッチアップ
- ・ オフショア市場の拡大
- ・ ユーザー企業の内製化の動き
- ・ 単金の二極化

## Ruby×アジャイルリモート開発の推進

拡大するDX市場。島根の強み“Ruby”を武器に、特にDXで注目されているRubyと親和性が高いアジャイル開発案件をターゲットに、県内IT企業が連携してリモートによる開発案件の受注増大に向けた取り組みを推進していく。

## R4年度のITOCの取組み



## R3年度のITOCの取組み

### 人材育成講座の実施

Ruby×アジャイル開発に必要なスキル「プロジェクトマネジメント」、「アジャイル開発」の基礎を学ぶ講座を開催。



### 調査事業

複数社がチームを組んでRuby×アジャイル開発を行うには、マネジメント力が不可欠。

建設業界で実施されている「CM：コンストラクション・マネジメント」を参考に、実務で必要となる実施体制、各種テンプレート、契約等の実務ノウハウを整備。

## 9. 「しまねデジタルイノベーション推進事業」

- 労働人口の減少や市場ニーズの変化、さらには新型コロナウイルスの影響など経営環境は大きく変化。
- 環境変化に適応するため、組織・仕組み・サービスをデジタルへシフトし、差別化・競争優位の確立が必要。
- **しまねデジタルイノベーション推進事業**では、県内企業のデジタル化のステージに合った支援を実施。

### デジタイゼーション

- ☑ アナログ業務をデジタル化
- ☑ 業務効率化やコスト削減

### デジタライゼーション

- ☑ ビジネスプロセスの変革
- ☑ 新たな利益や価値の創出

### デジタルトランス フォーメーション

- ☑ ビジネスモデルの変革
- ☑ 競争優位の確立

## しまねデジタルイノベーション推進事業

### デジタル化推進アドバイザー

デジタル化推進アドバイザーが、企業からの相談に対応。経営課題の整理、デジタル活用のポイントをアドバイス。各種支援メニューの紹介なども行います。



### IT経営相談会

IT導入の専門資格を有するITコーディネータが、毎月2回、県内企業のITに関する困りごとや、ITツールの選定などのデジタル化に向けた相談会を実施。



### 専門家派遣事業

県内企業のデジタル化のモデルとなる取り組みについて、デジタル導入の専門家を派遣し、その企業の戦略的なデジタル導入に向けたアドバイスを行います。



R4.2.1テクノアークしまねへ移転。  
産業支援機関が集積するテクノアークしまねへの移転で、各支援機関と連携強化を図り、県内企業のデジタル化を推進します。